



行橋出身、バルセロナ在住の画家

九十九さん個展

旧門司税関 渡欧当初～最新作70点

無限の広がりを感じさせる雄大な画風を持つ行橋市出身でバルセロナ在住の画家、九十九伸一さん（52）の個展が、北九州市門司区東港町の旧門司税関で12日まで開催されている。入場無料。

九十九さんは九産大芸術学部大学院修了後の80年、イタリアに渡り、ミラノの画廊で評価を受け、欧州で個展

を続けた。86年にバルセロナに移り、01年のスペイン国際現代美術展で「国王が興味を示した芸術家10人」に選ばれ、日本にも度々帰国して各地で個展を開いている。

瓶、バケツなど静物を重厚に描いた渡欧当初の作品から、今年の最新作まで約70点を展示。広大な空や宇宙を思わせる青い背景に母子を描いた近作「聖母子」は、母性愛や神の存在を表現している。

来日中の九十九さんは「窓から海が見える旧門司税関で一度個展をしたいと思っています」と話す。「聖母子」を鑑賞した来客は、「通り魔事件を起こすような心のすさんだ人になんか優しい絵を見たい」と感想を語った。

【降旗英峰】